

これは…【**板碑(いたび)**】といひいます。



ある特定の仏さまに対する、あつひ信仰を表した石の塔で、当時の人々の強い願いが込められています。中世(今から約800~500年前)に、さかんに造られました。

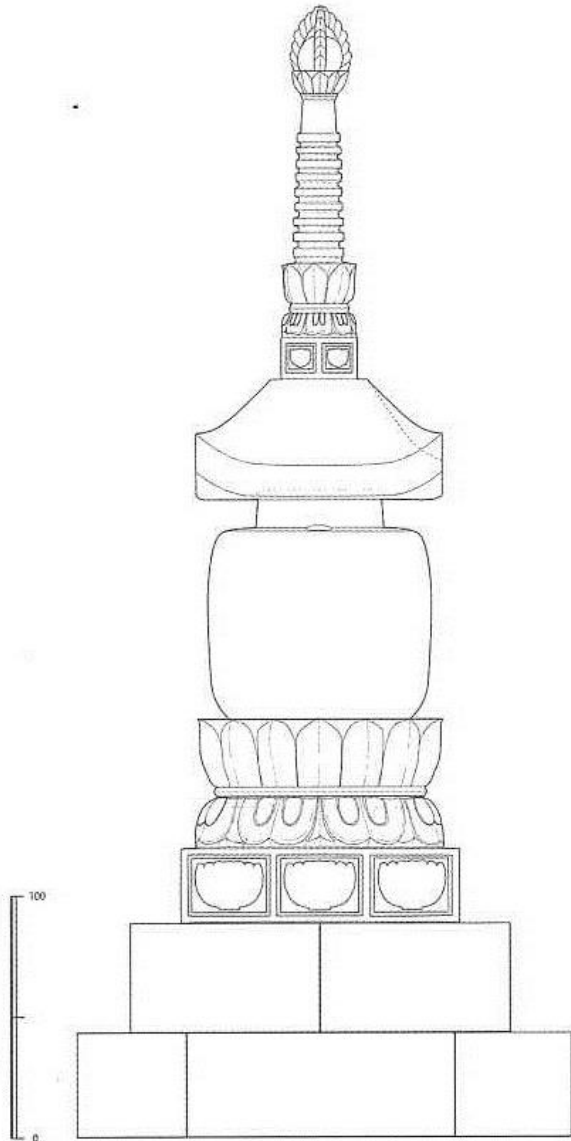
この「**塔ノ御堂板碑**」は高さ約180cmととても大きく、真ん中には阿弥陀如来を表す文字(キリク)が彫られています。

これは【**国東塔**(くにさきとう)】といいます。



国東半島でしか見られない、独特の形をした石の塔です。ハスの花を表した土台の上に、塔本体が乗っています。造られた目的はさまざまですが、**塔ノ御堂国東塔**の場合は、「自分が亡くなった後、極楽へ行けますように!」と生きている内にお問い合わせしたことが、塔に彫られた文字から分かっています。

これは【**カンカン堂国東塔**】といわれています。



これも国東塔ですが、真ん中の「塔身」(とうしん)という石をはじめ、いくつかの部品が失われています。残された部品から、復元した姿は左の図のように予想されます。

大きさは約465cmにもなり、国東半島でも最大の国東塔の一つであったと考えられます。

お墓として造られた可能性が高く、
現在でも、地元の方が大切におまつりして管理されています。

これらの石造物は【**小田原氏**】がつくりました。



鎌倉時代(今から約700年前)に、このあたりを治めていた**小田原氏**という有力な武士の一族が、一族の**繁栄**(はんえい)や**供養**(くよう)を願って、造ったものとされています。当時のあつい信仰を物語っています。